

第 28 回 東北建築賞 [作品賞] 選考報告

選考委員長 相羽康郎

1. 応募作品数

- ・小規模建築部門 : 11 点
- ・一般建築部門 : 14 点 (うち 1 点審査辞退)
- 計 : 25 点

2. 選考経過

(1) 事前打ち合わせ (2007 年 9 月 13 日, 於: 日本建築学会東北支部会議室)

応募作品の数とその内訳を確認した上, 東北建築作品発表会の運営方法および東北建築賞 [作品賞] の選考基準などについて事前打ち合わせ会議を行った。

(2) 東北建築作品発表会 (2007 年 9 月 29 日, 於: 仙台市福祉プラザ ふれあいホール)

第 1 次審査 (同日, 於: 仙台市福祉プラザ 10 階第 4 会議室)

第 18 回東北建築作品発表会において応募 24 作品の発表が行われた。11 分という限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され, 発表会は全体として滞りなく終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者諸氏に敬意を表したい。

東北建築作品発表会の終了後, 会場を移し, 現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として, 第 1 次審査に入った。今回は発表会の時点で, 選考基準である, 1) 企画力, 2) 技術力, 3) 地域への貢献・文化度に対して 10 点満点で採点するようにした。選考の手順は, まず各審査委員の採点結果を集計し各作品の合計を確認した上で, 具体的な議論に入った。また, 現地審査の対象数を決めるために, 小規模作品部門 4 点, 一般作品部門 8 点以上とすることで合意が得られた。

このような手順を経て, 小規模建築物部門では 4 作品, 一般建築物部門では 9 作品が選定された。また, 現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員かがこれに当たることを確認し, 選定された 13 作品について現地審査の分担を決めた。その後, 現地において確認すべき点を検討し, 作品の管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整を行うこととした。

(3) 現地審査

宮城県外の 8 作品に対しては 11 月 12 日～12 月 4 日の短期間実施された。仙台市内の作品のうち 5 作品については 1 月 26 日に, 全審査委員参加のもとで実施された。

(4)第2次審査(2008年1月26日,於:日本建築学会東北支部会議室)

第2次審査にあたり,選考手順に関する協議を行い,現地審査を行った作品を段階的に絞り込みながら選定することが確認された。その後,現地審査を行った審査員が1作品10分以内でそれぞれ説明し,質疑を行うことで進められた。今回,小規模部門5作品,一般建築部門9作品が該当する。なお,本審査委員会直前に,出席者全員で仙台市内の5作品について現地審査を実施したので,これらについては共通認識を共有するために議論すべき事項があれば取り上げることとした。全ての作品の説明が終了した後,作品賞ならびに奨励賞に値すると思われる推薦作品を,投票用紙に記載し投票した。その結果を踏まえて,さらにさまざまな見地から多面的な意見が出された。その結果,作品賞として一般建築物部門から4点,奨励賞として,小規模建築物部門から1点を選定した。

3. 選考結果

作品賞 東北工業大学香澄町1号館

【所在地】宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1

【設計監理】東北工業大学1号館建設委員会+佐藤総合計画

【施主】学校法人 東北工業大学

【施工】戸田・阿部和特定建設工事共同企業体

作品賞 花壇自動車整備大学校7号館・5号館

【所在地】宮城県仙台市青葉区花壇8-1

【設計監理】株式会社竹中工務店

【施主】財団法人角川学園

【施工】(5号館)佐々良建設株式会社

(7号館)株式会社竹中工務店

作品賞 こもれびの降る丘 遊楽館

【所在地】宮城県石巻市北村字前山15-1

【設計監理】株式会社 久米設計

【施主】河南町(現,石巻市)

【施工】鹿島建設 他

作品賞 東北学院中学・高等学校

【所在地】宮城県仙台市宮城野区小鶴高野 123 番 1

【設計監理】株式会社日建設計

【施主】学校法人東北学院

【施工】前田建設工業・銭高組・日本国土開発・橋本・奥田建設 JV

作品奨励賞 ギャラリー絵遊と蔵ダイヤモンド

【所在地】山形県山形市諏訪町 1-4-10

【設計監理】東北芸術工科大学建築・環境デザイン科
竹内研究室

【施主】駒谷 修二

【施工】株式会社 田中工務店

4. 講評

今回の応募作品数は、合計で25と前年度の22を若干上回る程度で大きな変化はない。前年度の応募数がその前年を大きく下回っており、十分な応募点数とはいえない現状に鑑みて、応募する魅力を高めるための方法が依然必要とされている。応募作品のうち小規模建築物部門は11点と昨年度より倍増したが、一般建築物部門は若干減少した。

小規模建築物部門の現地審査4作品から、意匠デザインで優れていても使用状況や維持管理状態で大きな困難があったり、街並み・まちづくりへの貢献は認められても空間意匠デザインで高い評価が得られなかったなどの理由で、作品奨励賞が1作品選定されるにとどまった。

一般建築物部門の現地審査9作品から4作品が作品賞に選定された。昨年に比べて点数が多いが、企画、技術の完成度のレベルが揃っていたためである。4作品とも大手の設計組織が関与していることと無関係ではないと考えられる。なお、企画力、技術力に優れ、地域への貢献が使用状況の活かさからも伺える1作品がやや群を抜いていた。

本年度の審査過程でいくつかの重要な議論があった。また実施可能なものは本年度中に実施された。

昨年度からの継続で、まず作品奨励賞の扱いがあった。作品賞に準ずるということではなく、デザインの意匠の完成度や地域文化性からの観点に加えて、リノベーションやまちづくりなどの観点も踏まえ、特筆すべき特徴を優先して顕彰する方向を打ち出し、内規の変更を常議員会に諮った。

応募の魅力を高める観点からも、すべての応募作品に講評を行うことを原則とし実施した。過去にも審査委員会の独自判断で実施されたことはあったが、本年度、速やかな講評の機会提供を内規に定められないか常議員会に諮った。本年度の第1次審査後、現地審査作品の発表と同時期に、選にもれた作品の応募者への講評送付が行われ、第2次審査の作品賞公表後速やかに、第2次審査にもれた作品の個別講評が送付される。

規約などに明記されているわけではないものの、東北建築賞は、建築完成後十分使用されている状態での評価を旨とすると伝え聞いており、確かに現地審査のための書類は、施主と使用管理者が対応する書式となっている。これに対し設計者が説明して良い場合もあるとの意見が応募者側の立場から提起され、この点を常議員会に諮った。過去に建設後使用実績期間の条件が短縮された経緯があった。他の顕彰制度と比較しながら、使用状態、施主・使用者の観点重視という東北建築賞の位置づけを再確認し、設計者の現地説明要請とのバランスなどについて、十分な検討をお願いしたい。

なお法令順守に関する対応が提起された。作品賞に選定された作品のうち、応募図面に駐車場とある場所が現地審査で、異なる機能と判明したものがあった。応募者から確認申請手続きの関係書類を提出頂き、書類確認後賞を確定した。

本年度の審査において、応募作品すべてに講評を実施したことは、健全な建築文化の発展にとって意義のあることと考えている。作品賞に選ばれなかった作品のなかには、ある観点から高い評価を受ける内容が存在する。講評送付により評価の高かった内容も伝えられると同時に、選ばれなかった理由もまた明記され、審査側の観点も理解していただける。東北建築賞の特徴のひとつとして、今後の展開を期待したい。

その他の特徴も含めて東北建築賞の位置づけを明確にし、応募する側に理解されるようこれを公表して、審査に反映させていくことを今後ともお願いしたい。

以下に入賞作品の個別の講評を公表している。入賞を逃した作品に対する講評も同様であるが、個別の講評は、現地審査に当たった選考委員が稿を起こしたものを、選考委員長がまとめたものである。

(作品賞)

◇東北工業大学 香澄町一号館

本作品は、東北工業大学のキャンパスの新しい核となる施設と位置づけられる。学生の情報交換や交流の場「tohtec LOUNGE」、学生窓口を集約した「学生サポートオフィス」、上部に教室群からなる教室棟と、大学本部としての管理棟をL型に配置している。

教室棟は、北西側の市道に沿う配置とし、吹き抜けやギャラリーを設けた透明感のある構成は、内外の風景の連続性を昂めている。管理棟は、3、4階を執務空間とし、1、2階は二層吹抜のピロティとしてキャンパスの東西ゾーンをつないでいる。

これらの配置により、新しく作られた中央広場、緑の広場、階段広場は、従来の混み入った施設群の鬱陶しさを解消し、さらに陽溜まりに溢れ、広々と内外に開かれたキャンパスの雰囲気を作り出すことに成功している。このように本作品はオープンスペースのデザインからディテールに至る迄、努力し工夫した成果を認めることができ、作品賞にふさわしい。

作品賞 花壇自動車整備大学校 7号館・5号館

広瀬川に向けて大きな開口部を設けた5号館は、暗く閉鎖的になりがちな実習室の印象を一変させるような明るく開放的な空間が、学生達にとって素晴らしい学習環境を提供している。フラットスラブと剛強な耐震壁により空間を囲った構造体は、開口部分は鋼管のみによりスラブを支持する独特の構造により、川に開かれた空間を有効に成り立たせている。

敷地の傾斜を利用して、実習室と学生ホールをうまく組み合わせ教室も併設する7号館は、広々と十分なスペースを提供する学生ホールが圧巻で、キャンパス側の外部大階段に向け、ほぼすべてを開け放つことが可能な大開口が気持ちよく、穏やかな季節に学生達がくつろぐ姿を想像させる。

コンセプトの「川に開く」については十分な成功を収めたが、「街に開く」に関しては、既存校舎に近接して新築された質の高い建物の活かし方について、既存の建物や校舎との間の空間整備など、今後とも十分な配慮を期待したい。大規模校では決してなし得ない、この規模でこそ成功した完成度の高い建築であり、作品賞に値する。

作品賞 こもれびの降る丘 遊楽館

地域の施設が、住民のあらゆる要望を、とりまとめ切れない結果をよくみかけるが、この施設は新しい視点での解決案を提示し、住民からも高い評価を得ていると考えられる。アリーナ、コンサートホール、生涯学習施設、プール等本来機能的にも形態上も分離が必要になるものであるが、それぞれの機能毎に確実なディテールで造り上げ、利用層の違い、時間帯の異なるものを、こもれび降る薄い淡い布をかぶせた様な、視覚的にも優しいパブリックスペースとした建築設計の技能は、高いレベルであると評価する。現在利用率は高く、地域外からの利用者もあ

り、初期の目的は達成されていると考える。

一方、こもれび降る、どこまでも繋がる大空間は、公共建築の維持管理の面で問題点を抱えかねず、長期的見通しの中で部分的修正も予測した運営を、発注者・設計者が協力して考えていってほしい。作品賞に値する素晴らしい建築であり、今後とも初期の思想が継承されるよう期待し、祈念する。

作品賞 東北学院中学・高等学校

東北学院の移転に伴い、中学と高校を一体化しつつ、大きな礼拝堂を生活の中心として組み込む新築のプロジェクトである。まわりはコンビニすらまだない風景であり、デザインにおいて参照すべき環境や文脈もなく、都市の日常から切り離された厳格な修道院といった趣きである。実際、外に開くというよりも、中庭に面する回廊のように空間が展開しており、キリスト教系の学校という性格が感じられる。

ここでは朝に全校生徒が中央の礼拝堂に集まり、両サイドに位置する中学と高校が1階の特別教室や体育館を共有する実験的なプログラムを持つ。こうした運営の形式を成立させるための、システムティックな平面計画と断面構成が評価できる。

基本的には、壮大さや規律を特徴とする空間だが、2階レベルの屋上テラスと図書室、そして1階の中庭と視線が行き交うエリアは、休み時間にアクティビティが生まれると予想される。まとめにくい巨大なスケールにもかかわらず、建築としての完成度が全体的に高く、作品賞に値する。

作品奨励賞 ギャラリー絵遊と蔵ダイマス

「ギャラリー絵遊と蔵ダイマス」は、山形市内に残る蔵の利活用を目的とした「ヤマガタ蔵プロジェクト」の一環として計画されており、既存の蔵と新設のギャラリーからなる。既存の蔵は保存を基本路線に最小限の改修が施されており、展示空間として利用されている。新設ギャラリーと併せて利用率も高く、市民に親しまれる建築であることは疑いない。山形の表情の一つである蔵を安易に取り毀すことなく、また、無為に保存するのではなく新設ギャラリーと渡り廊下でつなぎ、風景としての連続性も演出しつつ、活用に成功している点は高く評価できる。また「ヤマガタ蔵プロジェクト」は市民だけでなく全国的な知名度もあり、東北発の活動としても評価に値する。

その一方で新設ギャラリー単体は、特に挑戦的な試みが技術や意匠の面で認められず、単純な箱という印象を超えるものではない。必ずしも特筆に値する建築作品とは言い難いため、今後のプロジェクトの発展への期待も込めて、作品奨励賞とすることがふさわしい。